

《ハンギングバスケットマスター》

第4回

使い手から 作り手へ



《園芸業界》へのメッセージ



花好きの輪を広げるために みんなで工夫していきましょう

(一社) 日本ハンギングバスケット協会

長野県支部長 **岩本 真美さん** (松本市)



講習会を開く地元園芸店に展示した作品を見た人からの発注も (写真は霊園向けの作品)



岩本さんのやさしく癒やされる作品。カラーリーフも活かされている



松本市の緑と花のフェスティバルの入場ゲートを飾ったハンギングバスケット



イベントでは講習会、ワークショップを開催。花の魅力に参加者に伝えている

自宅で寄せ植えやハンギングバスケットの教室を開いて花好きの人たちの輪を広げている岩本さん。長野県内の花のイベントにも積極的に関わっている花とみどりの業界・行政にとって心強い存在だ。
(高木)

* アロマからハーブ、花の世界へ

私は元々、アロマセラピーを勉強していて、ハーブ、花へと興味が広がりました。自宅では、アロマと寄せ植え、ハンギングバスケットの教室をそれぞれやっています。私と同じように、アロマから花に関心を持ってくれる生徒さんもあります。

年齢層でいうと、アロマの教室は若い方が多く、花の教室は子育てから手が離れた年代の方が多いですね。少ないけれど、男性もいますよ。いろいろな世代と立場の方が、花を通してつながってくればいいなと思ってやっています。

* 苗の組み合わせはテーマを持って

参加者が多い教室を開くとき、悩むのは苗のことで。例えばパンジーをトレー単位で仕入れる場合、基本色が一通り入っていると、どうしても使えない色が出ます。でも、色指定で仕入れると、値段が高くなってしまいます…。

例えば、半分は黄色、半分はオレンジとか、同系色が半々であるといいですね。白と赤でもいいかな。バラバラな花色を使うと、ただ植え込むだけの教室になって、それだとハンギン

グバスケットの良さが伝わりません。

テーマを持って作ることはやっぱり大切です。例えば、春だったら、「暖かな光」とか。生産者さんや小売店さんが「こんなテーマで寄せ植えしてみませんか？」と花色や植物を組み合わせ提案してくれるといいなと思います。

資材に関しては、ハンギングバスケットをもっと高い位置で飾るスタンドが欲しいです。特に、ラウンドバスケットは重いので壁に掛けられないことがありますから、専用の高いスタンドがあるといいなと思いますね。

* コンテストにも新しい挑戦を

日本ハンギングバスケット協会長野県支部は、ゴールドデンウィークには「善光寺花回廊」、6月は松本市の「花いっぱいフラワーコンテスト」、秋は長野市の「ながのハンギングバスケット&コンテナガーデンコンテスト」に関わっています。

このうち松本と長野のコンテストには、一般の方も気軽に参加してもらえる部門を設けました。出品してくださった一人ひとりには、良かった点と惜しかった点をお伝えしています。それが次の作品づくりにつながってほしいと。

それから、秋の長野のコンテストは今年、日程を12月に変更する予定です。最近は秋でも猛暑だったり、台風も強くなっています。今までのやり方をただ続けるのではなく、時代に合ったやり方をみんなで工夫していききたいですね。